

歯科衛生士が行なうSRP。
それは、直視できない歯肉縁下をキュレットで探ること。

こんにちは。株式会社オーラルケアの歯科衛生士、関山牧枝です。

歯科衛生士の多くは、直視できない歯肉縁下を手探りでSRPしているのが現状です。デンタルやブローピングチャートなどを確認しながら、「本当にここまででいいのか……」と不安を心の奥で感じているのではないのでしょうか。

現在では拡大鏡を活用し、歯肉縁下の歯石を確認しながらSRPを行なっている歯科衛生士も存在します。それでも、中等度以上の深い歯周ポケットではその視野を確実に確保できません。

中山吉成先生のDVD『90%非外科的歯周療法で成果を上げるインスツルメンテーションテクニック』では、歯科衛生士が何をゴールにSRPを行なうべきなのかを示してくれています。歯科衛生士としての感覚を研ぎ澄ませ、歯石と補綴物のマージンを見分ける。そして、歯石を薄くそぎ落とすように除去し、セメント質への侵襲を最小限に食い止めるその方法が学べます。

歯科衛生士が漠然と行なうSRPから積極的にアプローチするSRPに変わる道しるべ。それはまさに、歯科衛生士として最高の施術をする自信につながり、多くの患者さんを歯周オペの不安から解消してあげられるでしょう。

歯科衛生士のSRPでは到達困難といわれている4mm以上の歯周ポケット。中山先生のSRPを学んだ歯科衛生士は8mmのポケット内にもキュレットを到達させ、歯肉を改善に導いています。

手探りではなく、確実に自分の指先に伝わる感覚を感じ、自分の手で探り取る。SRPの考え方が確実なものへと変わります。

歯科衛生士が行なうSRPは、長期におけるメンテナンスにおいて重要な役割を果たします。そのSRPで確実に歯石が除去できれば、炎症を繰り返すこともなく、どのような症例においても（抜歯対照歯以外）健康な歯肉へと改善させることができ、生涯にわたり噛める状態で維持することができるのです。

中山先生のSRPのポイントを抑えるだけで、明日からのSRPが格段と上達するに違いありません。手指に伝わる感覚は直接ご指導を受けることでより一層上達できます。SRPのゴールをはっきりと、そして確実に見据え、歯科衛生士としてさらなる高みへの一歩を踏み出してください。

株式会社オーラルケア
歯科衛生士 関山 牧枝
TEL:0120-500-418

追伸：熊谷崇先生の推薦状文中に出てくる医院訪問型セミナーについては、
SATのWebサイトをご覧ください。▶ <http://www.sat-iso.net/>